

岸上亮己 きしじやう 新聞記者、俳人。明治六年十一月二十八日栃木縣生れ、昭和二十七年六月二十一日歿（八七三—一九六二）。號花影生、香橋。元治元年禁門の戦ひ敗れて自刃した十七烈士の一人岸上弘や、博文館を中心とする多彩な著作を残した岸上實軒は血縁の密なる。少時埼玉縣浦和で活版工となる。明治二十年片山潜主筆の『労働世界』の寄稿。翌年同志と活版工同志懇話會を興し、更に活版工組合を結成するなど労働運動に従事。三十二年東京日日新聞社入社、西川光次郎の後を継いで社會労働問題を担当した。のち俳句を能くした。

『昔昔いゝコ達の跡』(昭和八年五月十日埼玉・付編)、また『加藤政之助翁略傳』(昭和十二年七月五日加藤翁頌徳記念會)を編纂出版。